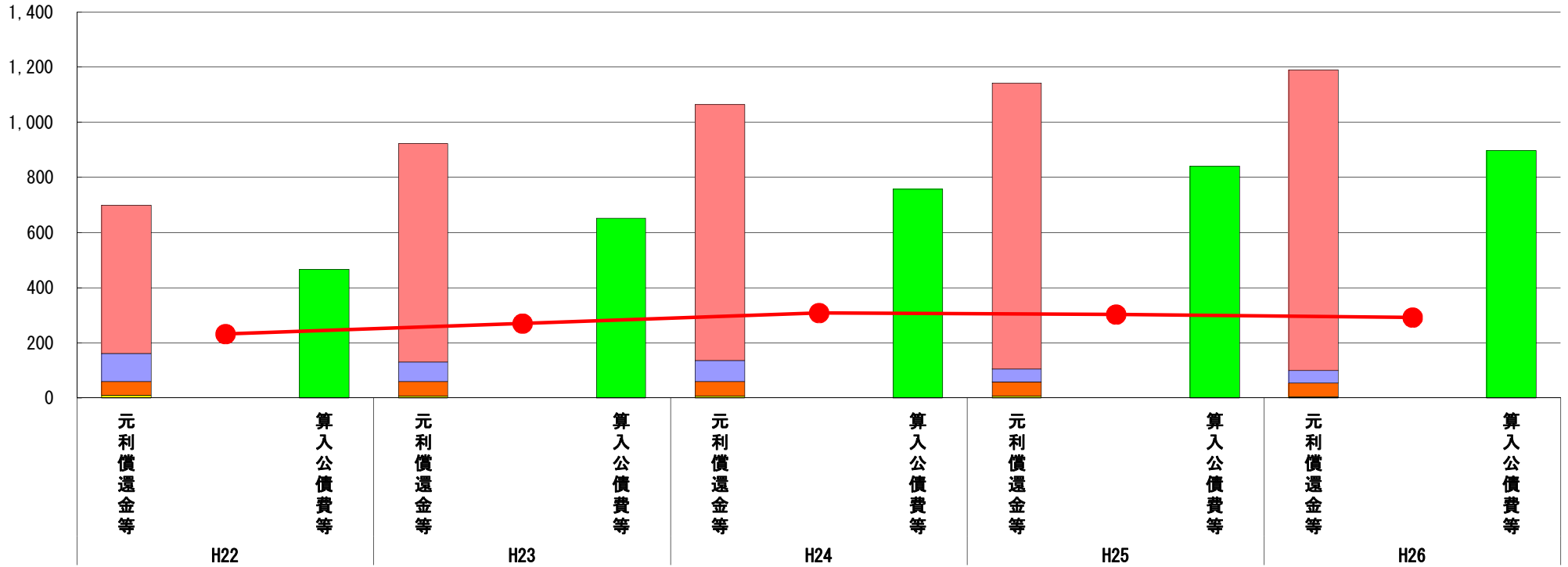


(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成26年度

北海道幌延町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H22	H23	H24	H25	H26
元利償還金等 (A)	元利償還金		538	793	929	1,038	1,090
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		102	70	76	47	46
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		51	53	53	51	51
	債務負担行為に基づく支出額		8	7	7	7	3
	一時借入金の利子		-	-	-	-	0
算入公債費等 (B)	算入公債費等		466	652	757	840	897
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		233	271	308	303	293

分析欄

平成23年度から大型建設事業の実施に係る地方債の元金償還が始まったため、大幅な分子増加となっており、平成27年度が公債費のピークと見込んでいる。
 しかしこれは、意図的に償還年数を圧縮したものであり、交付税算入となる有利な地方債が多く占めることにより、経常一般財源が確保できるため、それほど懸念すべき状況ではないと思われる。

※平成27年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。